



Webster会長と加藤新理事長  
社員総会後、13階役員会議室にて

# JANSI トピックス

6月13日に2024年度定時社員総会を開催しました。**社員総会**では、2023年度 事業報告書及び決算報告書、2024年度事業計画書及び収支予算書、**理事、監事**の選任について承認されました。また、引き続き開催された臨時理事会において、理事会の新体制が決められました。理事・会長としてウィリアム・エドワード・ウェブスター・ジュニアが再任、代表理事・理事長として新たに加藤功が選任され、全事業者のCEOが理事に選任されました。

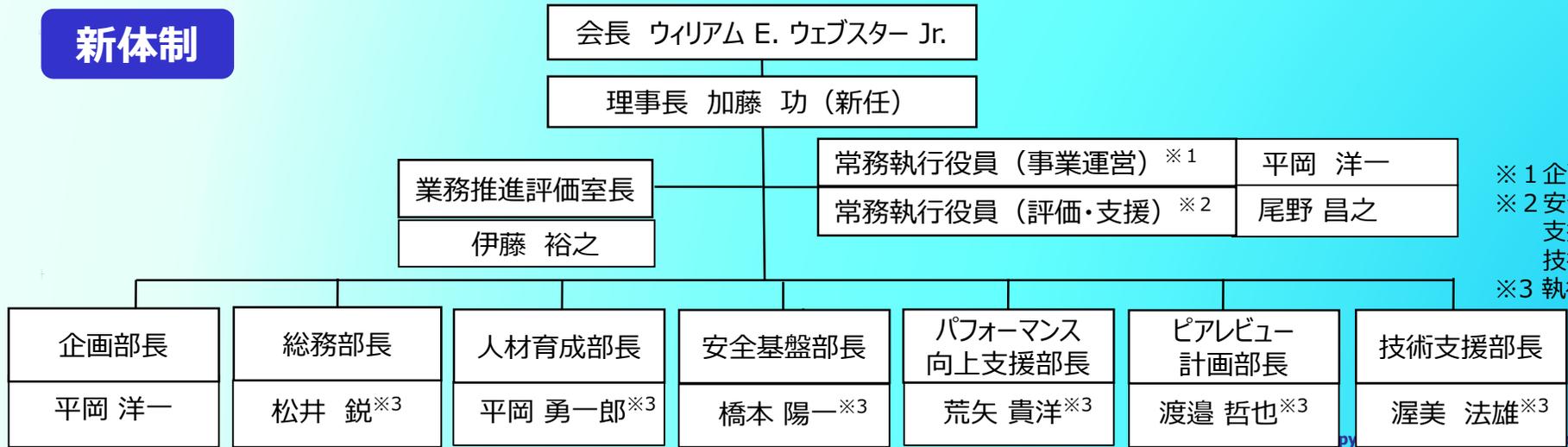
なお、社員総会をもって、前理事長の山崎広美は退任いたしました。8年にわたる皆様からのご支援、ご指導に感謝申し上げます。巻末に退任に係るご挨拶を掲載しておりますので、ご一読いただけますと幸いです。

社員総会后、会長のウェブスターから2023年度の産業界及びJANSIの現況を総括し、今後の展望について会長メッセージを発信し、理事長の加藤からは就任挨拶を行いました。なお、2023年度のJANSIの活動状況については、「**JANSIアニュアルレポート2023**」にまとめ、ホームページで公開しています。

〈会長メッセージは[こちら](#)〉

〈新理事長就任挨拶は[こちら](#)〉

**新体制**



※1 企画部・総務部・人材育成部管掌  
 ※2 安全基盤部・パフォーマンス向上支援部・ピアレビュー計画部・技術支援部管掌  
 ※3 執行役員



## 新10年戦略

2019年3月、JANSIと事業者が目指す将来ビジョンを設定し共有するとともに、その実現に向けた道筋を明確にした長期戦略として、『**JANSI-10年戦略**』を制定しました。本戦略は、10年間に亘る環境変化を考慮し、国内外の有識者のご意見も参考にしつつ、事業者とJANSIが一体となり検討を進めてきたものです。

制定後5年を迎え、以下の環境変化などを反映し、2024年3月、事業者及びJANSIの将来ビジョンなど「10年戦略」を大幅に見直しました。

- ①エネルギー安全保障、グリーントランスマーショニングなどの社会環境の変化（原子力への期待の高まり）
- ②JANSIが実施するピアレビューがWANOと同等であることが世界で初めて認められたことなど、10年戦略の進展
- ③米国における先進事例

事業者とともに本戦略を道標として、さらに高みを目指す将来ビジョンの実現に向け、事業者と一致団結して取り組んでいきます。

なお、本戦略は長期に亘るものですので、定期的に活動の有効性、経営環境の変化等を確認・評価し、必要に応じて変更していきます。

## 将来ビジョン

**事業者は、自主的継続的安全性向上の取組みを定着させることより、世界最高水準の安全性・信頼性を達成し、その状態を維持、継続している**

**JANSIは、世界のエクセレンスの権威として、独立した立場から、事業者を牽引している**

# JANSIの活動状況

## JANSIの活動状況

重要成功要因	主要アクション
1. 健全な安全文化の醸成	<b>(1)自主規制の主体としての事業者意識向上の牽引</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 5月16日に理事会、CEOセッションを開催し、2023年度事業報告書及び決算報告書、社員総会の議題案などが議論されるとともに、セルフアセスメント（内部オーバーサイト）、合同アセスメント、同等性行使ピアレビューの結果、国際アドバイザー委員会・国内アドバイザー委員会の実施概要などが報告された。 また、事業者CEO限定で開催されたセッションでは、ピアレビューの結果について意見交換が行われた。</li><li>● 6月13日に2024年度定時社員総会、臨時理事会を開催し、JANSI新体制を決定した。</li><li>● 新任CEO/CNO、発電所長との面談を計画中</li><li>● SR（発電所対応のJANSIの総合窓口となる代表者）による発電所への定期訪問を実施。</li></ul>
	<b>(2)安全文化醸成活動の支援</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 1事業所に対し安全文化現場診断を実施。2024年度は5事業所での実施を予定。</li></ul>
	<b>(3)高いパフォーマンスを維持・継続する組織有効性を見極めと展開</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● WANO コーポレート（本店）ピアレビューに参加。2024年度は3回の参加を予定。</li></ul>



# JANSIの活動状況

## JANSIの活動状況

重要成功要因	主要アクション
<b>2. 自主的継続的改善の基盤プログラムの運用</b>	<b>(4)世界のエクセルスの追求</b> ● エクセレンスガイドラインの見直しの検討を開始
	<b>(5)質の高いピアレビューの効果的・効率的実施</b> ● 2024年度は3発電所でのピアレビューを計画し、発電所とコミュニケーションを継続 ● 1発電所においてWANO-ピアレビュー同等性行使を計画し、発電所とコミュニケーションを継続 ● 3事業所に対するメーカーピアレビューを計画し、相手方とコミュニケーションを継続
	<b>(6)PMCMの成熟と有効活用</b> ● 稼働している発電所全て（6発電所）を対象にPMCMを実施
	<b>(7)発電所総合評価の継続的改善</b> ● 発電所総合評価システムの見直しに着手
	<b>(8)OE活動の改善</b> ● OE情報のスクリーニングを実施。
	<b>(9)重要課題への迅速・適切な対応</b>



# JANSIの活動状況

JANSIの活動状況	
重要成功要因	主要アクション
3. 事業運営に必要な人材の確保・育成	<p>(10)リーダーシップ研修・セミナー等の充実と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当直課長研修、当直副長研修、発電所管理者研修フォローアップを実施。</li> </ul>
4. 自主規制組織としての機能・意識・技術力などの基盤の充実・強化及び効果的・効率的な活動の実施	<p>(11)自主規制組織としての基盤確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2024年度理事長と職員の少人数対話の基本計画を策定</li> <li>● 戦略業務「継続的な業務効率化の実施及び業務モデルの抜本的再構築」の検討</li> </ul> <p>(12)国内外関係機関・組織との連携と信頼関係の構築など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● NRRCとトップ間の意見交換会を実施</li> <li>● 「JANSIアニュアルレポート2023」を発行・公開</li> <li>● 電気新聞への記事掲載（アニュアルカンファレンス2023の特集記事、JANSI新役員体制）</li> <li>● 10年戦略改正に伴うパンフレット類（協会、10年戦略）の見直し・公開</li> </ul>
5. 至近に対処すべき重要課題	<p>(13)長期停止発電所への支援及び再稼働支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2発電所に対し再稼働支援を実施。現場ウォークダウン及びインタビューを実施。</li> </ul> <p>(14)原子燃料サイクル施設への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SRによる定期訪問を実施</li> </ul>
6. その他	<p>「運転責任者判定試験・認定業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2024年度第1回運転責任者判定試験を実施</li> </ul>



NRRCとの意見交換会  
アポストラキス所長とメザーブ顧問が来訪されました

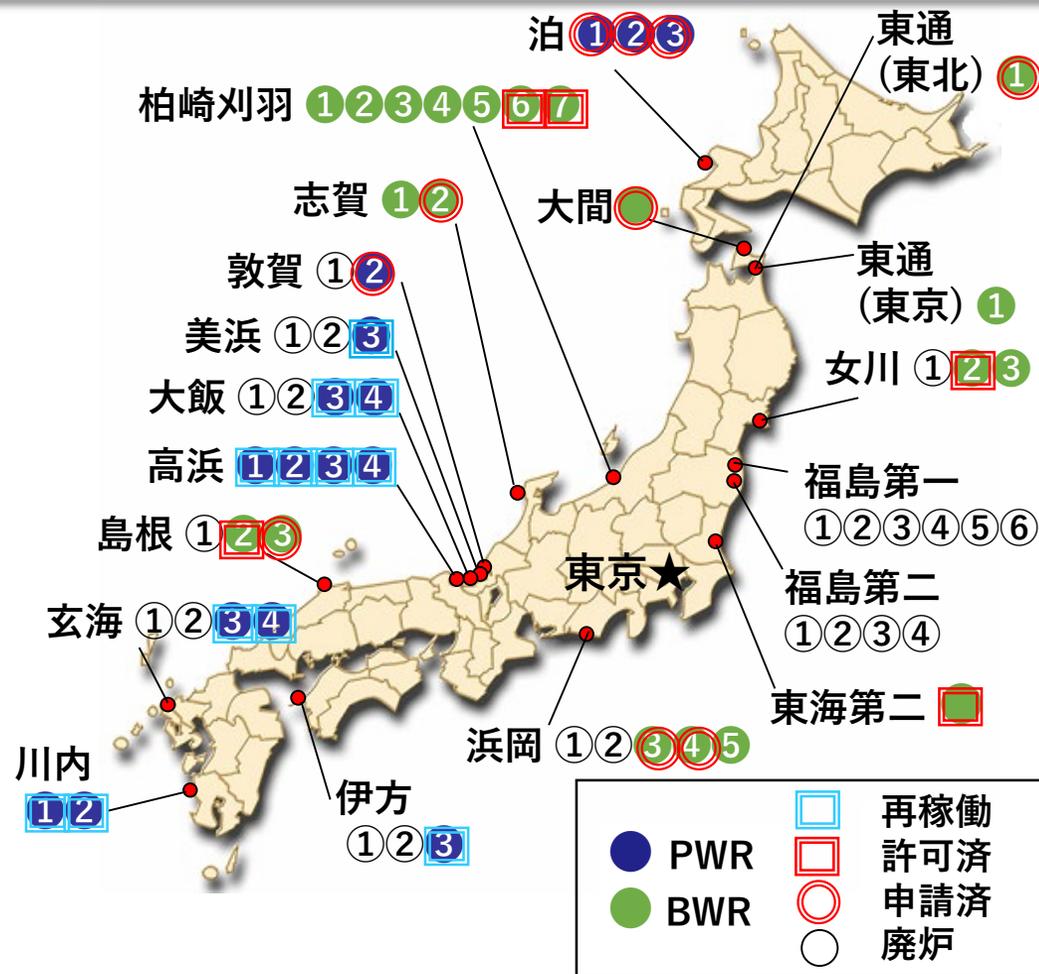
## トピックス&lt;2024年6月末現在&gt;

- 4/30 中国電力は島根原子力発電所2号機の再稼働を12月に延期すると発表した。
- 5/15 広島高裁松江支部は中国電力 島根2号機の運転差し止めを求めた仮処分で、申し立てを退けた。原告側は特別抗告などの不服申し立てを行わなかった。
- 5/15 経済産業省 資源エネルギー庁は総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会を開催し、第7次エネルギー基本計画策定に向けた検討に着手した。
- 5/27 東北電力は女川原子力発電所2号機の安全対策工事の完了を発表した。2024年9月頃を想定している再稼働に向けて各種試験・検査、作業を進める。
- 5/29 関西電力は高浜発電所3、4号機の60年までの運転期間延長および40年以降の運転を前提とした原子炉施設保安規定の変更について、認可を受けたことを発表した。
- 5/31 中国電力は島根原子力発電所2号機の原子炉施設保安規定変更認可について、認可を受けたことを発表した。本認可をもって、島根原子力発電所2号機の新規制基準への適合性に係る審査は終了した。
- 6/26 関西電力は大飯3、4号機の30年超運転についてNRAから認可を受けた。



# 原子力発電所の状況

- 福島第一原子力発電所事故前は、運転が54基、建設が3基、廃炉が2基（11事業者）（原型炉等除く）
- 新規規制基準適合性に係る申請を27基(PWR:16基、BWR11基)が実施
- うち17基(PWR12基、BWR5基)が許可済み、再稼働は12基。廃炉は23基に激増



新規規制基準 許可状況	PWR (●)	BWR (●)	合計
再稼働 (□)	12	0	12
許可済 (□)	0	5	5
申請済 (○)	4	6	10
未申請	0	9	9
合計	16	20	36

上記には建設中のプラント(3基)含む

廃止ユニットの 状況	PWR	BWR	合計
廃炉 (○)	8	15	23



## 退任のご挨拶

私は6月の社員総会を持ちまして理事長を退任いたしました。後任は東北電力元CNOの加藤さんです。皆様からの長年にわたるご支援、ご指導に深く感謝申し上げます。

私は2016年2月にJANSIに着任し、2018年からの6年間はWebster会長の下で理事長として日々の業務運営の舵取りをさせていただきました。着任当時はJANSIが発足してまだ日も浅く組織として未熟な面もありました。また、産業界自主規制の概念が広く浸透している状況にはありませんでした。その後事業者の皆さまと自主規制のあるべき姿について議論を積み重ね、ようやく共通認識ができてきました。

Webster会長の指導の下、2018年度には10年戦略を策定しました。産業界とJANSIが何を成し遂げたいのか、及びそのためのJANSIの各活動の位置づけが明確になりました。併せてJANSI各部門はそれぞれの活動を充実させ、事業者からの評価を高めていきました。とりわけ2022年10月のWANO世界理事会において、JANSIの発電所ピアレビュープログラムが世界標準に照らしてWANOと同等であることが世界で初めて認定され、JANSIに対する国内外の評価が高まりました。活動の実績を積み重ねる中で事業者の意識も大きく変化し、ピアレビューを始めとするJANSI活動を積極的に受け入れ、自らの改善に役立てようとする姿勢が鮮明になってきました。

2023年度には活動実績や事業環境の変化を踏まえ、10年戦略の改定を行いました。定着しつつある産業界自主規制を更に深化、発展させて実効的なものとし、「事業者は世界トップレベルの安全性・信頼性を達成し、それを維持継続する」、「JANSIは世界のエクセレンスの権威となる」という高邁なビジョンを掲げました。

Webster会長、加藤理事長の下、新10年戦略により産業界及びJANSIが一段の飛躍を遂げ、国内および世界から尊敬と信頼を得られることを心から期待しています。

長い間お世話になりありがとうございました。皆様の益々のご健勝を祈念いたします。

2024年6月13日 山崎広美



## 略語・用語解説

ピアレビュー (Peer Review) :

専門家が発電所などを訪問し、その専門的立場から事業所の安全性(原子力安全、放射線安全、労働安全等)と信頼性の確保に係わる活動をレビュー(評価)することにより、事業所の安全性と信頼性を向上させることを目指すもの。原子力産業界ではWANOやJANSIが発電所に対して一定の頻度で実施。

PMCM (Performance Monitoring & Continuous Monitoring) :

パフォーマンスモニタリングのシステムデータや各種情報により、発電所パフォーマンスの状況を日常的に把握するもの。

OE (Operating Experiences) : トラブルなどの運転経験情報

SR (Senior Representative) : 発電所対応のJANSIの総合窓口となる代表者

〈その他関連用語はHPにも略語・用語解説を掲載しております。[こちら](#)をご参照ください。〉

